

Shizuoka
Kusanagi
Campus



Shizuoka
Sena
Campus



2022



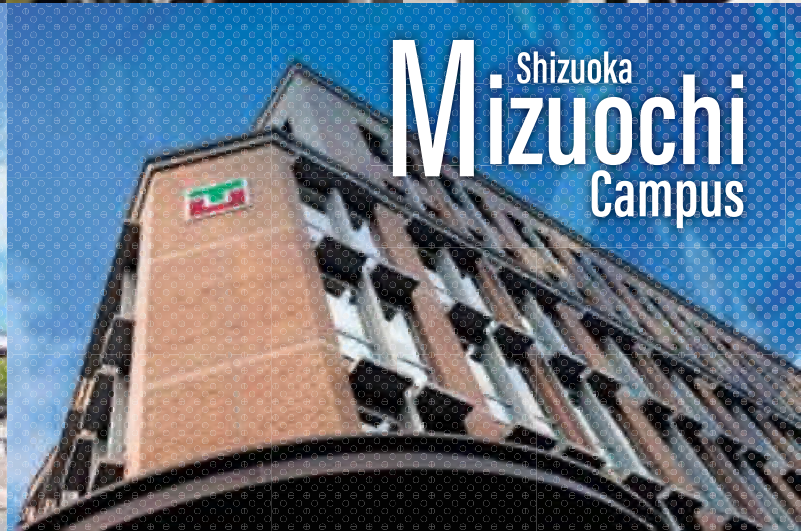
常葉大学 地域貢献センター 活 動 報 告



Hamamatsu
Campus



Shizuoka
Mizuochi
Campus



■目次

挨拶	2
学長	江藤 秀一
地域貢献センター長	木村佐枝子
地域貢献センターのご案内	3
開設の目的	
取組・業務内容	
【特集 1】令和 4 年台風 15 号支援活動	4
【特集 2】地域貢献活動の取組事例発信	
「常葉大学 ×SDGsー地域とともに持続可能な社会の実現へー」	6
大学と地方自治体等との包括連携協定	8
包括連携協定先一覧	
包括連携協定先との連携事例	
地域交流・連携推進事業	14
公開講座	15
ここは未来塾ーTU can Projectー	16
地域連携活動の事例紹介	18
地域貢献活動実施件数報告	30
学外の助成事業を活用した連携事業	31
地方自治体等との連携講座	32
学生団体紹介	34
静岡キャンパス	
浜松キャンパス	

常葉大学・常葉大学短期大学部

学長 江藤 秀一



本学は静岡県内二大都市の静岡市と浜松市にキャンパスを有し、地域貢献を教育理念の一つに掲げ、それぞれのキャンパスにおいて、公開講座をはじめ、地方公共団体等との連携事業や学生の地域貢献ボランティア活動などを活発に行っております。本年度も新型コロナウイルス感染症はおさまりを見せませんでしたが、感染症対策に万全を尽くし、昨年度以上に数多くの地域貢献活動を実施することができました。

学生の地域貢献活動を支援する「とこは未来塾～TU can Project～」では、これまで以上に多くの学生が参加できるように、入門的な取組を支援する「ライトプラン」を設け、成果を発揮しました。また、持続可能でよりよい社会を目指すSDGsに関しても、学生団体及び教職員による様々な活動が行われ、その取組について本学ホームページの地域貢献センターページにて公開中です。さらには、令和4年9月の台風15号の影響を受け、草薙キャンパス近辺では断水等の被害に見舞われましたが、地域貢献センターを拠点に給水等の支援を行いました。

本学の在学生の9割強が静岡県内の出身ですので、地域の皆様のご支援無くしては本学の存在もなしと言っても過言ではありません。今後も地域の皆様に貢献できますよう、地域貢献活動を推進してまいります。どうぞ引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

常葉大学 地域貢献センター

センター長 木村 佐枝子



本学に地域貢献センターが開設され、5年が経過しました。令和2年度からの3年間は新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの活動ではありましたが、工夫しながらも多くの地域貢献活動を行うことができました。

令和4年9月の台風15号による豪雨災害では、多くの学生が災害ボランティアとして活動し、草薙キャンパスでは、地域の方への施設の一部開放、学生による託児、給水支援、支援物資の回収など、一日も早い復旧を願い活動を行いました。

また、地域貢献活動をSDGsの17の開発目標に紐づけて発信する企画「常葉大学×SDGsー地域とともに持続可能な社会の実現へー」では51の事例を大学ホームページで紹介し、世界的な取組への全学共通のアクションとして表明することができました。

令和5年度からは新たに静岡県教育委員会が認定する静岡県青少年指導者級別認定事業として地域に貢献できる人材を育てる「とこは人材育成プロジェクト」をスタートさせます。

さて、本書は、令和4年度の地域貢献活動をまとめたものです。公開講座、とこは未来塾、地域交流・連携推進事業の主要事業に加え、様々な活動を紹介しております。ぜひご高覧いただき、今後の地域貢献活動へのきっかけやさらなる発展のために、学内外のみなさまのご支援、ご協力をいただけますようお願い申し上げます。

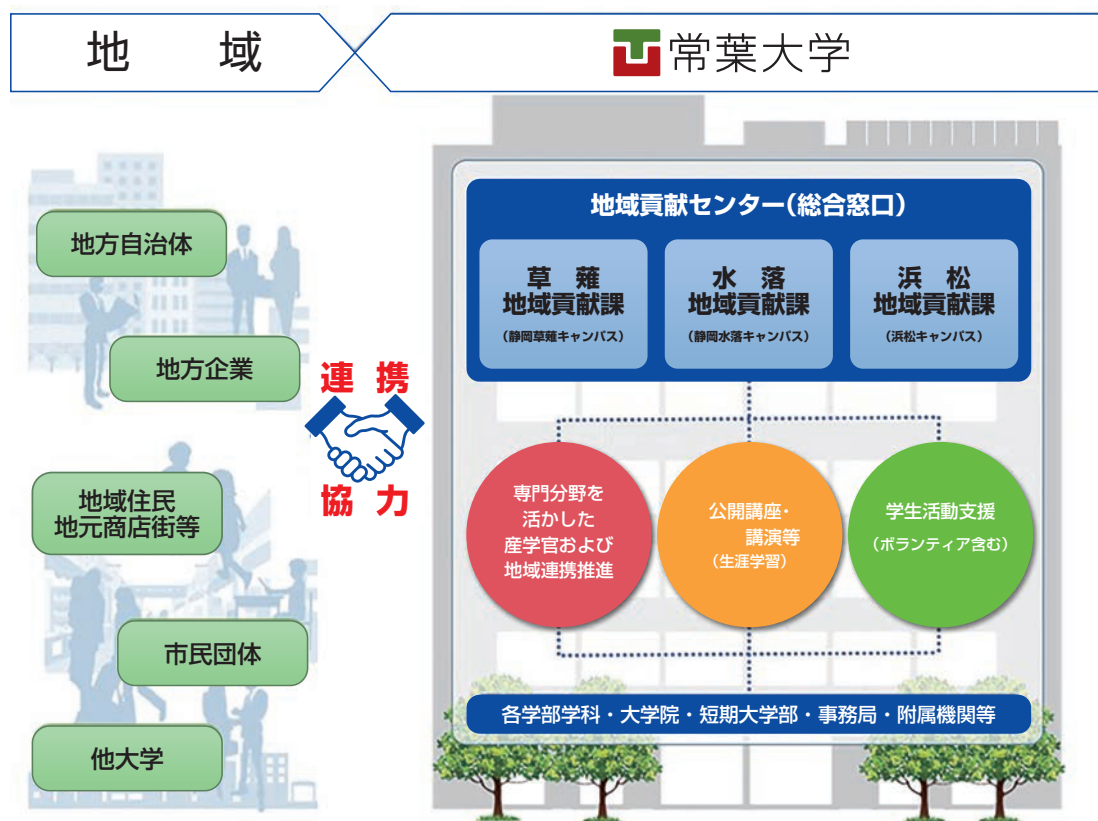
地域貢献センターのご案内

■開設の目的

常葉大学は平成30年4月の静岡草薙キャンパス開設を機に、これまで以上に地域に開かれた大学を目指し、組織的に地域への貢献を促進するために、地域貢献センターを開設しました。様々な取組を通じて、地域社会の活性化を図るとともに、地域社会に貢献できる人材を育成しています。また、地域と大学、地域と学生を結ぶ地域連携の拠点として、地域社会の発展に貢献していきます。

地域活性化の必要性を訴える地域の皆様方からの声や、若者が集まる大学に対する高い期待も寄せられています。地域貢献センターは、地域・社会に貢献する学生の活動支援、地方自治体や地元企業等と本学教職員との連携・協力のコーディネーション、地域の諸課題に係る情報収集・分析・調査、公開講座の運営など幅広い支援業務を実施しています。

～地域課題を解決し、学生の主体性を育てる新たな拠点へ～



■取組・業務内容

専門を活かした産学官 および地域連携推進	公開講座・講演等 (生涯学習)	学生活動支援 (ボランティア含む)	その他
<ul style="list-style-type: none">◆ 地元自治体・諸団体との連携◆ 学部・学科等の地域貢献活動の支援◆ 包括的連携の推進	<ul style="list-style-type: none">◆ 一般の方、地域住民の方（正規学生以外）に対する高等教育の提供◆ 外部資源を活かした教育・研究活動の充実◆ 施設の開放の推進	<ul style="list-style-type: none">◆ 地元自治体はじめ諸団体との連携協力◆ 学部・学科等の地域貢献活動の支援◆ 学生独自の地域貢献活動への支援	<ul style="list-style-type: none">◆ 地域連携に関する情報管理・発信（広報活動）

【特集 1】令和4年台風15号支援活動

令和4年9月23日夜から24日未明にかけて、静岡県では台風15号の接近に伴い記録的な大雨が観測されました。この大雨の影響により、県内各地で浸水や道路の冠水、停電、断水などが発生し、常葉大学静岡草薙キャンパスも駐車場や周辺道路が冠水する被害を受けました。こうした事態を受けて、本学では学生・教職員に協力を募り、大学や周辺地域の復旧・支援活動を実施しました。このページでは、その取組事例について紹介します。

■学内活動

一時保育ボランティア「とことこ保育」の実施



断水の影響で静岡市清水区のこども園が休園する中、浸水被害などの片付け作業に追われる家庭を対象に、保育学部が中心となって子どもの一時保育を行いました。一時保育は草薙キャンパス内の子育て支援室で実施し、保育学部や短期大学部保育科の学生・教職員がボランティアで子どもの遊び相手を務めました。

また活動中には、NPO法人森のようちえん「ゆたか」からの洗濯サービスや、NPO子育て支援ネット「よしよし」からの子育て用品の寄付、さらに寄付の運搬には静岡大学災害ボランティアサークルにご協力いただきました。

保育の専門性を活かした今回の支援活動は大きな反響があり、県内の多くのメディアにも取り上げていただきました。

大学周辺地域の片付けプロジェクト



当時、道路の冠水により草薙キャンパス周辺地域には大量の土砂や雑草が流されてきました。そこで、地域貢献センターで学生に向けて清掃活動のボランティアを募り、約130名の学生が授業の合間を縫って作業を行いました。作業中には地域の方から感謝の言葉をかけていただき、参加した学生からも「想像以上大変だったが、そのぶん達成感があった」との感想が聞かれました。

断水時の支援・工業用水の配布



台風の通過直後、県内各地で断水が発生し、地域によっては1週間ほど断水が続くところもありました。そこで草薙キャンパスでは、駐車場の一部水道を給水スポットとして一般開放しました。また、学生ボランティアを募って、学内で集めた空のペットボトルに大学の工業用水を給水し、草薙キャンパスや草薙駅前で配布する活動を行いました。さらに、学友会の発案により、学生向けに草薙キャンパスシャワー室を無料開放しました。

タオル回収と被災地への寄付



浸水被害を受けたご家庭の復旧作業を支援するため、地域貢献センターでは全キャンパスの学生・教職員に新品・中古タオルの提供を呼び掛けました。タオルは約900枚集まり、その後パッキングして、草薙キャンパスや近隣町内で、必要な方に配布しました。復旧作業中のお宅からは、「中古タオルは何枚あっても助かる」との嬉しいお言葉をいただきました。



■学外活動

静岡市災害ボランティアへの協力



台風15号被災後に静岡市社会福祉協議会が開設した「静岡市ボランティアセンター」に有志の学生がボランティア登録し、静岡市内の復旧活動に参加しました。参加した学生からは、「土砂を集める作業に1日もかかり、人が足りない状況を目の当たりにした」との感想が聞かれました。

清水ボランティアセンター運営ボランティアニーズ班で活動



台風15号の被害が大きかった静岡市清水区で10月1日、草薙キャンパスと浜松キャンパスの学生2名は、ボランティアの依頼に優先順位を付けて次に繋ぐ「ニーズ班」として活動しました。また、実際に現地調査にも同行しました。

至る所に水害の爪痕が残されていて心が痛くなると同時に、自分たち学生には何ができるのか考えさせられました。

浜松市天竜区災害ボランティア活動に参加



10月2日、台風15号の被害にあった天竜区で、浜松キャンパスの学生5名が災害ボランティアとして活動しました。

この地区の一部地域では河川が氾濫して街中に溢れ出し、道路が水深1m以上冠水する大きな水害となりました。この日学生たちは、被害にあったお宅の泥かきを担当しました。川から流れ出した汚泥はとて重く、役割を交代しながら作業を行いました。道路には多くの土壌や水につかってしまった家財道具が運び出されていました。同じ地区でもボランティアが入っていないお宅もあり、まだまだ人手が必要な状況でした。

参加した学生は「報道されていない地区でも被害の大きいところはたくさんある、そうしたところにも目を向けて欲しい」と話しました。

被災地へ支援物資を寄付



浜松キャンパス陸上競技部の学生2名は、台風15号災害でなにか役立てることはないかと、地域貢献センターに飲料水を持参し、清水区のボランティアセンターで活動予定の学生に手渡しました。また、学内で回収したタオルとともに社会福祉協議会へ寄付しました。

大学祭で募金活動を実施



経営学部山田・酒井ゼミでは、台風15号の被災地支援として、外部助成を受けて開発したきよさわ里の駅の商品を大学祭で販売し、売上金全額を清沢のNPO法人へ寄付しました。また、商品販売とあわせて復興支援の募金活動を行い、葵区長より感謝状を受け取りました。

【特集 2】 地域貢献活動の取組事例発信 「常葉大学× SDGs ー地域とともに持続可能な社会の実現へー」

はじめに

令和 4 年 9 月より常葉大学公式ホームページにて、地域貢献活動の取組事例を発信する企画「常葉大× SDGs ー地域とともに持続可能な社会の実現へー」をスタートしました。

本学は、教育理念の 1 つに「地域貢献」を掲げており、多くの学生や教職員が積極的に地域貢献活動を行っています。

今回、その活動を SDGs（持続可能な開発目標）と紐づけて可視化し発信することで、学内外に SDGs に関わる取組を行っていることを紹介しました。地域社会の一員である大学は、持続可能な社会の実現に向けて、その一翼を担う必要があります。本学は、静岡市と浜松市に 4 つのキャンパスがあり、学生のおよそ 9 割が静岡県内出身者です。学生一人一人が地域の担い手として、地域で活躍できる人材を育成しています。

日頃の地域貢献活動を SDGs と紐づけて 1 つの企画として可視化する

今回の企画では、それまで各キャンパスにおいて学生や教職員が個々に SDGs または地域貢献活動を展開していたものを 1 つの企画としてまとめたことが特徴です。短期大学部を含む全学部から学生、教員、職員も含め、51 件の事例を紹介することができました（右表）。

また、企画にあたり、以下のことを目的としました。

- (1) 地域に根差す大学としての存在意義を示す
- (2) 活動を SDGs に紐づけることで、全世界的な取組に参加していることを示す
- (3) 地域課題の解決は地球規模の課題の解決につながることを再確認し、専門性を活かした地球規模の問題にも対峙できる人材の育成につなげ、SDGs の実現に貢献する
- (4) 学生および教職員、またすべての方々が SDGs に取り組む当事者になりうることを意識する機会となること

■学部等別の掲載数

学部等	件数
教育学部	3
外国語学部	4
経営学部	6
社会環境学部	4
保育学部	1
造形学部	3
法学部	1
健康科学部	4
健康プロデュース学部	10
保健医療学部	2
短期大学部	2
初等教育高度実践研究科	1
学生団体	8
学内事業	2
合計	51

世界中の誰もが豊かな生活を送っていくためには、個々の心がけと実践が問われており、日ごろの行動を SDGs の目標に結び付けることにより、諸課題に気づき、課題解決に貢献するといった流れをつくることが重要です。本学では、建学の精神及び教育理念を軸に、SDGs が日ごろの私たちの生活と密接に繋がっているという意識の醸成が必要です。現在、本学で取り組んでいる活動を継続していくとともに、それぞれの事例を契機にさらに多くの取組が生まれ、SDGs の目標である持続可能な社会の実現に貢献していきます。



防災× SDGs すでろくを活用した
持続可能な開発のための防災教育



アート× SDGs
秘境・秋山郷で表現する森の豊かさ



メディカルサポート× SDGs
生涯スポーツを支援する

■取組事例（一部紹介） ※学生が取組事例の一部を紹介します。

常葉グリーンプロジェクト

教育学部生涯学習学科 学生評議委員会議長 風間涼太

本活動では学生に節電を呼びかけるとともに、現在SDGsにまつわる活動を行っているかというアンケートを取るとともに、今夏達成できそうなマイルールを一つ考え、実行してもらいました。短い集計期間にもかかわらず1000人以上の学生がアンケートに回答し、マイルールを考え実行してくれる結果となりました。今回アンケートに答えてくれた大半の学生が買い物にエコバッグを持っていく、油をふき取ってから洗い物をする、ご飯を残さないなど日頃の生活でSDGsを意識した生活をしてきていることが分かりました。



三保松原3Ringsプロジェクト

社会環境学部社会環境学科 3Ringsプロジェクト学生チームリーダー 宮城嶋開人

3Ringsプロジェクトは、(株)なすび、(株)Otono、静岡市の3団体で構成され、活動目的は、三保松原の景観を保全することです。私たちはこのプロジェクトに参加して、松林の清掃を継続するための仕組みを作っています。また、松葉の焼却量を減らすための試みも行っています。清掃活動には、地元の学生、企業、一般の方々が参加しています。この活動の輪が広がることで、三保松原の魅力の発信に繋がります。また、多くの方が参加することで、より良い保全形態になることが期待できます。三保松原に対する住民の意識が、近くにある観光地ではなく、自分たちの町の中にある観光地というものに変化することを期待しています。



小学生防災体験活動「たのしくまなぼうさい」の実践活動

健康プロデュース学部健康栄養学科 3.11 はままつ東北復光プロジェクト 伊藤萌

これからの未来を担う子どもたちと共に東日本大震災について振り返り、防災・減災を身近なこととして考え、命を守る行動、震災時重要となる地域社会との関わり強化に繋げるための機会として、防災ハンドブックや防災動画の作成、わが町ははままつ大学生交流フェスタ2021へのブース出展の3つを行いました。いつ起こるか分からない災害に向けて自分ごととして防災について考えたり、災害が起きた際に自分には何ができるのかを改めて考えたりするきっかけを作ることができました。



広げよう！健幸づくりの輪「健幸アンバサダー」の実践活動

健康プロデュース学部心身マネジメント学科井口ゼミ 鈴木清香

コロナ禍でも地域の方々の健幸を増進するために「地域住民の健康に対する意識向上」、そして「楽しく身体を動かすことのできる機会の提供」の2つが重要であると考え、実践活動を行うことにしました。一般の方を対象にした「健幸アンバサダー講座」「転倒予防教室」「認知症予防教室」では、測定やコグニサイズなど、高齢者を対象にした講座を実施しました、また、「親子向けのダンス教室」「子どものかけっこ教室」では、楽しみながら体を動かすことを体験してもらいました。教室終了後に「とても楽しかった」「身体を動かす大切さを再確認できた」などといった言葉を多くいただき、当団体の活動を通じて地域の皆様の健幸づくりに貢献することができたと思います。



「健幸かるた」を用いた小学校での健幸教育支援

健康プロデュース学部心身マネジメント学科吉田ゼミ 高橋明子

心身マネジメント学科で健康について学び、これまでに小学生に運動機会の提供や授業を実施した経験から、子どもたちの「ウェルネスリテラシー」を高めるための教育教材(かるた)を開発しました。制作は、健康プロデュース学部の学生が読み札を考案、読み札のイメージにあったイラストを造形学部の学生が行いました。かるたの読み札には、健幸の7つの要素を視覚的に理解できるよう、共通のイラストを印刷するなど工夫をしました。完成したかるたを使って浜松市内の小学校で 健幸教育に関する授業を行いました。



学内でのSDGsイベント開催と静岡市と連携した活動

外国語学部グローバルコミュニケーション学科 令和3年度学生評議委員会議長 大石健太郎

学生としてどのようにSDGsに貢献できるか考えました。静岡市企画課や地域の方に協力いただき、学内で講演会を実施しました。学生の方々にSDGsとは何か、SDGsとはどのような活動なのかを知ってもらい、それぞれ自分がどう社会や地域に貢献できるのかを考えるきっかけにしました。第1回SDGsユースサミットでは、誰でもSDGsに関わることができることを感じてもらうために出演させて頂きました。学生の方にSDGsとは何か知ってもらうこと、SDGsにおいて自分には何ができるかを考えてもらうきっかけを作ることができました。



上記以外は、常葉大学公式ホームページをご覧ください。

常葉大学 HP
はこちら→



大学と地方自治体等との包括連携協定

地域の特性及びニーズに応じた地域連携・交流事業を展開するため、地方自治体、各種団体等との連携・交流協定の締結をしています。双方の持つ経営資源を活用し、地域課題の解決に貢献しています。

■包括連携協定先一覧

No.	協定書の名称	協定締結先	協定締結日
1	松崎町と常葉大学との包括連携に関する協定書	松崎町	平成27年10月13日
2	掛川市と常葉大学との包括的連携に関する協定書	掛川市	平成27年11月13日
3	藤枝市と常葉大学との包括連携に関する協定書	藤枝市	平成28年 3月24日
4	静岡市と常葉大学との包括連携に関する協定書	静岡市	平成28年 6月14日
5	浜松市と常葉大学との包括連携に関する協定書	浜松市	平成29年 3月27日
6	特定非営利活動法人掛川市スポーツ協会と常葉大学 浜松キャンパスとの連携に関する協定書	特定非営利活動法人 掛川市スポーツ協会	平成29年 9月15日
7	常葉大学とI Love しずおか協議会との連携・協力に関する協定書	I Love しずおか協議会	平成29年10月26日
8	静岡市文教エリア等の発展に向けた相互協力に係る協定書	静岡市内の 複数高等教育機関等	平成29年10月26日
9	公益財団法人浜松市スポーツ協会と常葉大学との 連携に関する協定書	公益財団法人 浜松市スポーツ協会	平成30年 7月27日
10	常葉大学と静岡銀行との相互協力及び連携に関する協定書	株式会社 静岡銀行	平成30年 8月28日
11	常葉大学と静岡県警察との包括的連携協力に関する協定書	静岡県警察	平成30年11月 1日
12	学生ボランティア活動推進に関する協定書	公益財団法人 日本財団 学生ボランティアセンター	令和元年12月16日

本学学生は、包括連携協定先と様々な連携活動を行っています。浜松市や静岡県警との活動では、各学科の学びやサークル活動を通じ、地域課題に取り組み、表彰されています。

浜松市『善行賞』を受賞



ボランティア活動や文化活動など、社会や他者のために地道に努力されている青少年や青少年団体を表彰する、『浜松市青少年の表彰』の表彰式が行われ、個人の部で保健医療学部山口大翔さん、団体の部で健康プロデュース学部のTeam Iが善行賞を受賞しました。

防犯標語コンクールで優秀賞を受賞



静岡県防犯協会連合会が行う「全国地域安全運動・全国暴力追放運動向け標語コンクール」において、防犯サークルJUSTICEの代表を務める法学部の深澤武竜さんの作品が入賞しました。

作品『裏社会 行くな越えるな 魔のフェンス』が応募総数429件の中から優秀賞に輝き、静岡中央警察署にて表彰を受けました。

常葉大学ふれぐろラボが「浜松ウェルネスアワード2023」大賞を受賞



「予防・健康都市」の実現に向けた浜松ウェルネスプロジェクトの推進に大きく寄与し、他の企業や団体等の模範となるウェルネス・ヘルスケアに関する事業又は取組を表彰する「浜松ウェルネスアワード2023」の市民健康部門で、健康プロデュース学部吉田ゼミの学生を中心とした団体「ふれぐろラボ」が大賞を受賞しました。

■ 包括連携協定先との連携事例

■ 松崎町

伊豆トコプロジェクトを実施



社会環境学部では平成15年から静岡県賀茂郡松崎町石部地区にある「石部の棚田」の保全活動に取り組んでおり、今シーズンも3月の畔切りから活動を開始しました。4月に実施した畦塗りでは、田んぼに張った水が漏れないようにするために、畦に泥を積みあげて整形します。この畦づくりがしっかり行われていないと夏には畦から水が漏れてしまい、稲が育たなくなるので1年で最も重要な作業です。学生は畦を作るために泥だらけになりながら作業に励みました。

5月には田植え、8月には草取りに参加し、10月に開催された収穫祭では、地元の石部棚田振興協議会や県内外のオーナー会員と収穫作業に取り組みました。シーズンを通して延べ100人の学生が参加しました。棚田の伝統を守るためにも、これからも保全活動を続けていきます。

■ 藤枝市

藤枝市の魅力発信 むかし田舎体験「水車むら」のバイリンガル動画を制作



藤枝市のむかし田舎体験「水車むら」と連携し、外国語学部の学生が「水車むら」での豊かな環境学習体験をベースに、地元や遠方のオーディエンスに向けたバイリンガル動画を企画・制作しました。

このプロジェクトは藤枝市の地域の歴史文化に関する資源を観光・産業資源として活用すべく、その魅力を国内外に発信していくために計画したものです。

学生は定期的にミーティングや勉強会を行い、藤枝市の歴史や伝統、農村での暮らし、ビデオ編集、SNSにおける画像や映像の利用に関する倫理的な問題について学びました。その後、「水車むら」を訪問し、写真・ビデオ撮影や水車むら代表の保志氏へのインタビュー等を行い、動画を完成させました。制作したバイリンガル動画はYouTube、Instagram、LINE、Twitter等を通じてプロモーションを行いました。こちらからご覧いただけます。



藤枝市民文化祭・市民ホールおかべ会場の広報及びにぎわい支援に協力



造形学部の学生5名が、藤枝市民文化祭・市民ホールおかべ会場の広報及びにぎわい支援のプロジェクトを企画運営しました。奏踊・詩吟発表会（11月3日）・文化体験教室合同発表会（11月26日）の会場でのにぎわい支援を、造形学部が作成した岡部宿に因んだ看板とデコレーションを用いて行いました。当日は会場スタッフとして入口・駐車場案内等と共にデコレーション前での来場者・出演者の記念撮影サポートを実施し、多くの方々に楽しんでいただきました。

「みちゆかし 秋の芸術祭 @了善寺日本画体験ワークショップ」を開催



藤枝市「みちゆかし 秋の芸術祭@了善寺」にて、短期大学部保育科木下藍先生と学生4名による日本画作品展示とワークショップを行いました。ワークショップでは子どもから大人まで約15名と共に日本画制作を楽しみました。参加者からは「ひさしぶりに描いたので自信はなかったのですが、楽しかったです。子供達も本当に楽しそうでした」といった感想をいただきました。

■ 静岡市

「駿河区の魅力再発見」ワークショップに参加



静岡市駿河区役所で開催された区民意見聴取事業のワークショップに、法学部と健康科学部の学生7名が参加し、「駿河区の魅力再発見」をテーマに同区の魅力や特色などを意見交換しました。

最終発表では、大学生らの若い力を活かしたまちづくりの事業案が披露され、参加した学生は「異なる年代の方との意見交換を通じて新しい魅力を発見した」と充実した表情を見せました。

災害時の情報発信の課題解決策を行政に提案



法学部望月ゼミにおいて、静岡市市長公室広報課の職員を講師に招き、「静岡市の広報」についての講話を聴くとともに、災害時の情報発信における課題についての意見交換を行いました。

学生は、事前にグループに分かれて情報収集を行い、課題解決策を取りまとめた上で、同市担当者に発表しました。実際の行政の課題について学生は研究し、提案をする貴重な機会となりました。

「静岡市公式LINE 道路損傷等通報システム」広報チラシを制作



造形学部村井ゼミの有馬郁奈さんは静岡市市道路部道路保全課と協働し、「道路損傷等通報システム」の利用促進の広報物を制作しました。一般社団法人草薙カルテッド運営のコラボレーションスペースTaktで活動中、本プロジェクトへ応募した有馬さんですが、一カ月の制作期間中、造形学部ビジュアルデザインコースで学んだデザインスキルを活用しながら静岡市の担当部署と打ち合わせを重ね、広報用チラシを完成させました。広報開始以降、チラシは市内の関係各所に配布されることとなり、その結果、LINEによる登録市民が2倍に増える実績を挙げるなど利用促進の目的に対して多大なる貢献をしました。

西奈生涯学習センターの広報誌制作に協力 静岡市の介護予防プログラムの効果検証に協力



短期大学部日本語日本文学科の学生5名が静岡市西奈生涯学習センターの広報誌「にしなび」の制作に協力しました。前年度の学生が制作したオリジナルキャラクター「にしなん」のイラストを多く取り入れ、コロナ禍でも感染症予防に努めつつ、活動を継続しているサークルにインタビュー取材をした記事などを掲載しました。「にしなび」は、西奈生涯学習センターの利用者や近隣エリアに配布されます。



静岡市への協力として、健康科学部の学生・教員が市の介護予防事業「しぞ〜かでん伝体操」「しぞ〜かちゃきちゃき体操」の効果検証に取り組みました。市民114名に行った各測定やアンケートの結果を基にデータ分析や考察を重ね、理学療法の専門的見地から、市のプログラムをさらに効果的な取組とするための提言に繋がりました。

大学と地方自治体等との包括連携協定

■浜松市

『SDGs未来都市・浜松オープンミーティング』に参加



浜松市におけるSDGsの達成に向けた取組をさらに促進させるため、『SDGs未来都市・浜松 オープンミーティング』が12月7日アクティシティ浜松 コンgressセンターで行われ、健康プロデュース学部の藤井杏夏さん、植村友奈さんが参加しました。取組発表では、若者による未来に向けたアクションとして『地元規格外品などを活用し、食品ロスを意識した商品開発プロジェクト』について紹介しました。浜松市の事業ごみや廃棄の実態、農産物に規格外品が多くある現状を知り、『食品ロス』や地域産品への理解を深めることを目的とした商品開発について説明しました。学生が開発した『れもん小町』は店頭またはオンラインショップで購入できます。

遠州織物・草木染め『あたしのサコッシュ』を商品開発



大河ドラマ『どうする家康』の放送に合わせて地域を盛り上げるため、草木染めの遠州織物を専門に扱っているファブリック鈴忠と連携して、若年層に人気のあるサコッシュを経営学部村瀬ゼミの学生が共同開発しました。自分なりにカスタマイズできるようシンプルな生地を用い、思い思いに楽しんでもらえるよう、ネーミングにも願いを込め『あたしのサコッシュ』としました。

浜松市と大学との連携事業、市民と大学生が互いに自己の学びを深める大学生による講座

浜松キャンパスでは、浜松市と市内大学が連携・協力し、学生が講師として講座を運営する「大学生による講座」を開催しています。浜松市と連携・協力しながら地域社会の生涯学習の推進に取り組んでおり市民と大学生が互いに自己の学びを深めることを目指して実施しています。



作業療法のひとつ『スヌーズレン』の効果を体感

今年度初めてこの講座に参加した保健医療学部遠藤ゼミの学生は、発達段階における作業療法を学んでおり、子ども向けの講座『「スヌーズレン」ひかる紙芝居・絵本をたのしもう』を開講しました。「スヌーズレン」というのは、薄暗い部屋で音や光や触覚などを刺激する道具を用いて様々な感覚から心地よい刺激を受けたり、光や音楽などでリラックスする方法で、子どもが自分の好きな感覚を得て、リラックスできるという効果があります。参加した子どもたちは、暗い部屋のなかで学生とともに、光る絵本を読んだり、紙芝居を見たりして不思議な空間を楽しみました。



様々なバレーボールを体験し、スポーツの楽しさを知ってもらいたい

スポーツや運動の楽しさを知り、生涯スポーツの実施につなげることを目的に、健康プロデュース学部村本ゼミの学生が「チャレンジ・バレーボール」と題して、小学生の親子と様々なバレーボールに取り組みました。バレーボール経験のない子どもが多く、不安そうなお子さんもいましたが、学生が積極的に関わり、笑顔を見ることができました。スポーツ指導者をめざす学生にとってもよい経験になりました。

浜松市内の協働センター 18 か所で学生が実践

子どもを対象にした走り方、ダンスの講座、障がいのあるなしに関係なく楽しめるポッチャ、部活動の指導の一環として中学生を対象にした「刺さない鍼」を活用したセルフケア、高齢者を対象にした歩き方の講座など、各学科の学びを活かした様々な講座が開講され、学びの実践の場となりました。今年度は、全9講座19回開講しました。

令和4年度 浜松市と大学との連携事業 開講講座一覧

講座名・内容等	学生所属学科	指導教員	会場(実施協働センター名)
「あつまれ音楽の森」	こども健康学科	平松 なをみ	郡田
「めざせアスリートー走る、跳ぶ、勝つための筋肉の動き」	心身マネジメント学科	井口 瞳仁	入野・ 北部・ 和地
「親子でLet's dancing!!」		木村 佐枝子	天竜・ 中部・ 細江・ 中瀬
「あなたのお金を守る！特殊詐欺撃退すごろく」		村本 名史	長上・ 五島
「チャレンジ・バレーボール」	健康鍼灸学科	村上 高康	水窪・ 笠井・ 北浜南部
「自分できるセルフケア」		櫻井 博紀	北部・ 泉居・ 下阿多ふれあいセンター
「ポッチャを楽しみながら学ぶ」	理学療法学科	松村 剛志	倉玉
「WalkingをThinking」	作業療法学科	遠藤 浩之	可美・ 佐鳴台
「『スヌーズレン』ひかる紙芝居・絵本をたのしもう」			

■静岡県警察

「サイバー防犯ボランティア」に参加



静岡県警察が主催する「サイバー防犯ボランティア」に、本学の学生35名が本年度新たに登録することとなり、各キャンパスにおいて委嘱式・研修会が行われました。また、活動の1つとして、サイバーセキュリティ月間に合わせて浜松駅にて広報活動を行いました。

地域の見守り活動「しずおかランニングパトロール」を実施



地域をランニングしながらパトロールをする「しずおかランニングパトロール」活動を実施しました。静岡地区では、防犯サークルJUSTICEをはじめとして多くの学生が活動に参加しました。また、浜松地区では、「安心安全な地域社会の実現」に向けて近隣の都田南小学校と連絡を取り合い、一番事故の多い下校時刻を中心にランニングを行いながら、小学生の見守り活動を行いました。

「子ども見守り強化の日」に合わせて防犯パトロールを実施



子どもに対する不審者事案の届け出件数が増加する10月、静岡県が11日を「子ども見守り強化の日」に定め、この日、県内一斉に通学路の見守りやパトロール活動が実施されました。

浜松キャンパスでは、子どもの安全に関する意識を高めることを目的に、防犯や防災について研究する健康プロデュース学部木村ゼミの学生16名と、細江警察署員や地域防犯ボランティアが集まり、「防犯パトロール出発式」が行われました。出発式後にはグループでパトロールに出掛けました。

本キャンパスは、平成23年度より静岡県細江警察署と防犯ボランティアに関する協定を結んでおり、日頃から大学近隣をランニングや自転車でのパトロールを実施しています。また近隣の浜松市立都田小学校では下校見守りボランティアも行っています。

今後も地域の安心安全のために地域と連携しながら、活動を続けていきます。

県内初、防犯アプリで萩丘小学校の通学路点検を実施



健康プロデュース学部木村ゼミの学生が、浜松市立萩丘小学校の教員と保護者、浜松中央署の総勢約30人と防犯ウォーキングアプリ「歩いてマイマイ」を使って通学路の危険箇所と安全箇所を点検する活動に県内で初めて取り組みました。

香川大学が開発したこのアプリは、危険箇所や安全箇所を写真に撮り地図に登録し、地域ごとの防犯マップを作るものです。

この日は5つのグループに分かれて通学路を点検した後、グループごとに発表を行いました。木村ゼミの根上那月さんは「子供たちがこのアプリを遊び感覚で使って、防犯に対する意識を身につけてもらいたい。また、自分の安全を確保する力に繋げてほしい」と期待しました。

今後は主として小学生が活動し、防犯マップを完成させる予定です。

大学と地方自治体等との包括連携協定

■ I Love しずおか協議会

おまちクリーンキャンペーン 2022に参加



11月にI Love しずおか協議会主催の「おまちクリーンキャンペーン 2022」が静岡中心市街地で開催され、静岡水落キャンパスの学生14名が参加しました。当日は、86の企業・団体からの参加者約1300名とともに、JR静岡駅周辺地域で路上に落ちているごみの収集を約1時間かけて行いました。参加した学生からは、「大変清々しい気持ちになった」「1000名以上も参加していることから、これだけの人が静岡の町を綺麗にしようという気持ちを持っているのが嬉しかった」との感想があり、活動を通してこれまで気づかなかった静岡の街の光景や街に対する人々の思いを知ることができました。本学では、静岡中心市街地“おまち”の活性化、快適な街環境の整備に貢献できる取組として、これからも継続して参加する予定です。

らぶしずプロジェクト2022「どうする？駿府おまち歩きマップ」企画制作に参加



静岡キャンパスの学生3名が静岡中心市街地“おまち”の活性化を推進するI Love しずおか協議会主催の「らぶしずプロジェクト2022」に参加しました。このプロジェクトは『未来のまちづくり人財の育成』と『静岡愛の醸成』を目的に、他大学の学生と共同で活動するプロジェクトです。今年度は、テーマを「歴史」とし、学生目線でおまちな魅力を切り取り「どうする？駿府おまち歩きマップ」を企画制作しました。江戸時代から続く老舗店や、人気グルメなどのコンテンツのほか、おまちを散策できるように探訪コースの紹介など、随所に学生ならではの目線が盛り込まれたマップが完成しました。2月には静岡駅前と浅間通り商店街で配布イベントも実施し多くの方々に手に取っていただきました。本マップは、今後もイベント開催時や協力施設店舗で配布される予定です。

■ 浜松市スポーツ協会

浜松市スポーツ協会と連携して「足を速くする教室」を開催



浜松市舞阪総合体育館で8月7日、陸上競技部10名が「足を速くする教室」を開催しました。この教室は、常葉大学と浜松市スポーツ協会との連携協定に基づく活動で、今年で4回目となります。将来保健体育の教員を目指している学生を中心に、部活動での経験や知識を活かしながら、メニュー考案を行い地域の子もたちと交流しました。

最初にジョギング、準備体操を行った後、学生が良い見本と悪い見本を見せ、クイズ形式で違いを説明し、足が速くなるための3つのポイントを伝授しました。学生が子どもたちに姿勢、腕振り、もも上げの仕方など3つのポイントを声掛けし、アドバイスをしていくと次第にフォームがきれいになりました。

終盤には全員でリレーを実施しました。最初に学生がリレーの見本を見せると、学生の足の速さに子どもたちや保護者の方から歓声が沸き起こりました。

教室終了後には、保護者の方から個別に相談を受ける学生の姿も見られ、保護者の関心の高さも窺うことができました。また学生にとっても子どもたちを指導するという貴重な実践の場となりました。

浜松市スポーツ協会と連携し「キッズトレーニング」を開催



健康プロデュース学部吉田ゼミは、浜松市における子どもの運動能力向上や運動機会創出の課題解決に取り組んでいます。その取組の一つとして浜松市スポーツ協会と連携し、2歳から小学2年生を対象としたスポーツ教室を雄踏総合体育館で開催しました。本プログラムは1年間を4期に分けて実施しており、4月から6月のプログラムでは約20人の子ども達が受講しました。この教室は、アスレチックトレーナーとして長年アスリートの指導を行ってきた吉田准教授ならではの視点で、「子どものうちに身につけておきたい基本動作や感覚」を磨くことを目的にスタートしました。また、学生が大学で学んだことを基に、走る・跳ぶ・投げる等の複合的な運動プログラムを考案し、実際に指導を行える場となっています。教室を運営した学生は「どのように指導すれば子ども達が興味を持ち、また自ら挑戦したくなるのか、毎回試行錯誤の連続」と話していました。この活動が学生自身の将来のために役立つことを期待しています。